

特定非営利活動法人日本火山学会 2021年度第5回理事会 議事録

2021年10月19日17時00分～18時45分

Zoomによる遠隔会議

出席者：青木陽介，青山 裕，石峯康浩，市原美恵，奥村 聡，下司信夫，高木朗充，東宮昭彦，中道治久，西村太志，宮縁育夫，

欠席者： 上田英樹，大野希一， 千葉達朗，

各委員会からの報告

1. 庶務委員会

会員動向について報告した。理事会時点での会員数は維持会員293名、学会会員667名、一般会員112名、団体会員20件の合計1092名である。昨年同時期（総数1087名）に対して会員数はほぼ横ばいである。

本年度上半期に、以下3件の後援を行った（第64回粘土科学討論会、火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ、山梨県富士山科学研究所国際シンポジウム）。

現在の学会役員任期満了に伴う役員選挙を来年1月から実施することを報告した。

名簿作成、役員選挙の資料送付時に合わせて、名簿内容の確認書類を送付することとすることを報告した。

2. 編集委員会

66巻3号が9月に発行された。論文数も順調に増えている。特集号もあり7編の論文が掲載された。12月の4号についても9編の論文（特集号関連5本、論説3編、総説1編）が受理され掲載予定。積極的な投稿を促したい。

投稿規定に明記されていないあいまいな表現についての問い合わせが来ている。投稿規定についてわかりやすく整理を進めたい。

3. 財務委員会

予算の実施については確実な執行をお願いしたい。

4. 事業委員会

学会オリジナルノート、今年度45冊販売した。SNS上で情報収集したところ箱根ジオミュージアムで品切れとの情報があったので再購入を打診している。昨年作成した紹介動画を今年度も学会で紹介する予定。You Tube企画はやや遅れ気味であるが進めている。

5. 大会委員会

明日から秋季大会が開始する。予稿を9月21日に締め切ったところやや投稿数が少なかつ

たので5日延長した。延長期間中にかなりの投稿が追加された。83件の口頭発表、81件のポスター発表が予定されている。34件の学生優秀賞対象発表が行われる。発表数推移は、一昨年と比べると7割程度にとどまっている。

今年は創文印刷に、ウェブサイトの作成や口頭発表のZoom発表の部屋を作り進行管理等を委託した。学術講演会後に公開講座等一般向け行事を行う。創文印刷に運営を委託したことによる大きな問題は今のところ生じていない。口頭発表前田さん、ポスター発表鈴木さんが担当。

JpGUのセッションについて大会委員会の担当委員で火山関係を取りまとめている。セッション提案がある場合には大会委員会に連絡いただけるとありがたい。

一般講演会に対して交付された科研費は、旅費等が支出できなかったため予定した額よりもかなり残りそうである。秋季大会と連動して一般講演会を実施しているが、オンラインでできるならば対象とする人(たとえば中高生)のスケジュールに合わせた企画立案が必要と考えられるため今後の検討課題としたい。

6. 他学会関連担当委員会

EPSは順調に投稿数が伸びている。IFはいつもよりも速いペースで上昇している。火山学会関連では特集号が続いていたが、GNSS関係、霧島の特集号が立ち上がっている。分担金について、運営委員会で話題になっている。分担金を今後各学会で平準化する議論が行われている。来年度の本会分担金は変わらない予定。

PEPSとの関係はどのような議論が行われているかとの質問に対して、PEPSとのすみわけと協力を進めていることが説明された。PEPSはレビュー論文が中心であるのに対し、EPSはレターを重視したい。しかしEPSのレターがあまり伸びていないので対策を議論している。レターの魅力を上げるために査読プロセスを早くする必要があるが、査読の質を担保できるかが問題。投稿数を増やすことは重要なので、本会としては和文誌「火山」との共存を図りつつ進めたい。

7. 各賞選考委員会

秋季大会における生優秀発表賞の審査状況について説明した。口頭発表22件、ポスター発表15件の審査対象。今回はポスター発表による審査対象数が少ない。審査員は60名に依頼した。11月下旬ごろの理事会で選考結果を承認・確定させる予定。

学生発表の資格について検討していることが報告された。各賞選考委員会では社会人ドクターなどを審査対象とするか検討している。これに対して、社会人ドクター等職を得ている学生は対象としないほうが良いという意見や、現在は博士課程の学生に対しても給料を払っているので大学に在籍している場合は対象としたほうがわかりやすいとの意見があった。表彰の趣旨も考慮して、規定等に反映させたい。

8. 国際委員会

IAVCEI の小委員会が先月開催された。特に大きな動きはない。

IAVCEI でのウェビナー等を火山学会のメーリングリスト等に配信してもいいのではないかとと思われる。日本で噴火が発生したときなどにもタイムリーに情報を出せるようにしたい。

9. 将来計画委員会

来年度の秋季大会の運営方法について、ハイブリット開催等による費用の増加が予想される。LOC の負担も多くなるので、将来計画委員会で体制や予算について検討したほうがよさそうである。近いうちに委員会を招集して検討予定である。

10. 学校教育委員会

常松委員が新たに加わった。明日からの秋季大会で土曜日に親子実験を実施する。オンラインの実施を予定している。

地震火山子供サマースクール。サマースクールを実施予定だった日程を用いて模擬中継等を試みた。来年度の実施に向けて現地見を行う。これまでに実施してきたサマースクールの効果等、過去の開催地での効果などについて検証するセッションを JpGU で一コマ立ち上げる予定。

来年の三島大会での公開講座開催費を科研費に申請予定。

文部科学省主催の科学技術週間企画である学習資料「一家に1枚」の企画に応募した。一次審査は通過したが最終的には不採択となった。来年も行われる予定なので再度応募を考えている。

11. ジオパーク支援委員会

特に報告事項無し

12. 火山防災委員会

JpGU に合わせて火山防災シンポジウムを開催した。オンラインで実施。55名の接続があり好評であった。地域安全学会との連携による勉強会を6月に実施し、火山防災委員会の吉本委員が話題提供を行った。10月に2回目を開催予定であったが日程が火山学会の一般講演会と重複したため日程を1月22日に延期して調整中である。地域安全学会との連携、日本災害情報学会も加わって3学会共同での実施となる可能性がある。

防災学術連携国民大会が岩手で実施される。11月6日にシンポジウム開催予定。災害伝承をテーマに実施。内閣府主催の、火山防災協議会に参加する火山専門家等の連携会議が11月12日にオンライン開催予定。

13. 広報委員会

Twitter の一般公開の情報、火山の論文等の情報発信をおこなっている。雑誌「火山」の紹介はアクセス数が多い。Facebook では秋季大会の情報を発信する予定。

国内で火山が噴火した場合、関連する過去の論文を発信してはと考えているが、関連するすべての文献を発信できないので解決案を考慮中である。

火山学会の HP に若手研究者のルポを掲載している。コロナが収まってきているので再開したい。次回は防災科研で取材を予定。

「安全に火山を楽しむために」のパンフレットを更新する予定。

日本中の大学にどのような研究者がいてどのような研究が行われているかというような情報を学会としてまとめてみる企画を考えている。

一般の人が火山の映像・画像を見たいという要望があるため、火山学会で過去に掲載している口絵写真などを一つにまとめてアクセスできるようなものを準備するとよいと考えている。著作権の問題などをクリアして実現したい。防災担当者がイメージできるような図、降灰の写真とか、土石流の図なども学会から発信できるとよいと考えられるので、企画を検討したい。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021 年 11 月 30 日

議長 西村太志

議事録署名人 高木朗充 宮縁育夫